

平成 26 年度 施策評価シート

基本構想	環境と風景が息づくまちづくり
重点的方針	1. 二宮の自然、文化、住環境の魅力づくり
概要	町の自然、歴史・文化を発掘し活用するとともに、町民の暮らしに自然を取り込み、豊かな暮らしづくりを創造しようとする取組を、二宮の自然、文化、住環境の魅力づくりとして発展させます。

基本計画(分野別方針)事業名	実施計画 事業数	総合評価
(1) 生涯学習の役割の明確化	1	A
(2) 青少年の育成	2	B
(3) 文化振興の推進	1	A
(4) ふるさと教育の推進	1	B
(5) 生物多様性の保全	1	A
(6) 循環型社会の推進	2	A
(7) 低炭素社会の形成	1	B
(8) 公共下水道の整備と管理	1	A
(9) 公園・広場の充実と適切な管理運営	1	B
(10) 緑地の保全と緑化の促進	3	A
(11) 町民活動創出支援	1	A
(12) 人権・平和の推進	2	A
課題 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりを進めるため、新たな団体の育成や既存団体への更なる支援が必要となる ・近年、緑地が減少する中、緑の保全と創出の重要性は高まっている。街路樹や生け垣などの維持管理について検討が必要である。 	

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある</p>	B
	説明	・豊かなくらしづくりを目指し、身近な自然環境を生かした事業の推進や魅力ある住環境の整備に努めており、引き続き適切に維持管理をしていく。
	方向性	・町の財産である「自然、歴史、文化」などは長い時間を経て形成されてきたものであり、将来へ引き継ぐために、各事業を継続して行く必要がある。そのため、暮らしに役立つ潜在的な有効資源を掘り起こし、豊かな暮らしづくりを目指すため、身近な環境から暮らしやすさを向上させる必要がある。また、都市マスタープランや環境基本計画などの関連計画に基づき、町民・事業者・行政の連携協力による総合的な取り組みをより一層進めていく。

◎最終評価者[庁内評価委員会]

	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き施策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 施策を推進するためには、事業を改善する必要がある D: 施策全体を見直す必要がある</p>	B
意見等	<p>「二宮の自然・文化・住環境の魅力づくり」の項目については、適切に位置付けられており、効率よく事業が進められているが、一部改善の余地がある。町民の身近な環境から暮らしやすさを向上させるために、引き続き各計画に基づき、事業を見直しながら遂行していく必要がある。</p> <p>また、自然・文化は町の財産として将来へ引き継いでいくことが重要となる。そのため、事業を継続し、住環境発展のため各種計画を基に町民・行政が相互協力しながらより一層の取組みを行っていく必要がある。</p>	